

一、
今日も
カンポリンポの丘に立ち
はるか空を見上げよう
地球をつつむ青空よ
世界をめぐる綿雲よ
伝えてほしい
ここにわれらありと
ああ、サンパウロ日本人学校

二、
明日も
カンポリンポの丘の上
豊かに夢を育てよう
地球をつつむ太陽よ
ブラジルの大地よ
伝えてほしい
ここに希望ありと
ああ、サンパウロ日本人学校

サンパウロ日本人学校校歌



URL をタップしてサンパウロ日本人学校の校歌を聞いてみよう
<https://www.youtube.com/watch?v=E792sSdiLWo&t=14s>

三、
Hoje também
Da colina de Campo Limpo
Vamos contemplar ao longe
O céu azul que envolve a Terra
Oh! Grandiosa Terra Brasil
Transmita que estamos aqui
Transmita que aqui há esperança
Oh! Escola Japonesa de São Paulo

世界に届け！
カンポリンポの丘に立つ
われらの思い

本校の校歌は一九七四（昭和四十九）年のカンポリンポ地区校舎移転に伴い、その年の十月に制定され、十一月の学習発表会でお披露目されました。

校歌の作成は、移転に尽力された当時の総領事館・文化担当の鈴木康之領事の「子どもたちの人生のうち、一時期ブラジルで暮らしたことが美しい思い出になるような校歌がほしい」という熱い思いに作曲家の服部公一氏がこたえたことからスタートします。

服部氏は本校の子どもたちから詩を募集し、友人である詩人の生地靖幸氏に校歌としてまとめてもらい、メロディーをつけました。

服部氏は世界を旅していた時期があり、当時、偶然サンパウロにいらっしやったのでしょうか。そうだとすれば、これはまさに奇跡のコラボです。

一番と二番の歌詞に共通するのは、新しい校舎が立地する「カンポリンポの丘の上」。この日本から遠く離れた学び舎で誇りを持ち、希望を抱きながらがんばっていることを「伝えてほしい」とブラジ

ルの空や大地に託す印象的な歌詞になっていきます。

三番は一番の歌詞のポルトガル語訳。これは当時の外務省中南米局の参事官、河面徹郎氏が訳したとされています。こちらも歌い継がれていて、何年たっても、ふとしたときにこのポルトガル語の校歌を口ずさみ、サンパウロでの懐かしい思い出が心の中によみがえるといふ人は多いはずですよ。

校歌が仕上がり、お披露目の練習をした朝礼広場では、服部氏が壇に上がり、「みんなで地球の反対側の日本まで届くよう、大きな声で歌いましょう！」と言い、みんなまで日本まで歌声が届くように元気に歌ったそうです。

・先輩がたがこの歌詞をつくったということに驚き、感動しました。
 (小5 女子)

・現地校との交流学習で、校歌をポルトガル語で歌ったことが思い出されます。みんな元気よく歌い、仲よくなりました。(卒業生)

・校歌を聴くたびに、カンポリンポの広大な敷地と気持ちのいい空気、豊かな自然と子どもたちのたくさんのおいしさがよみがえってきて、涙が出てきます。(保護者)